

GMB株式会社

2023年3月期第2四半期 決算説明資料

証券コード 7214



<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。
また、「親会社株主に帰属する（当期）純利益」を「純利益」として表示しております。

I. 2023年3月期上期実績

II. 2023年3月期通期見通

III. 今後の対応

FY2022上期 損益実績

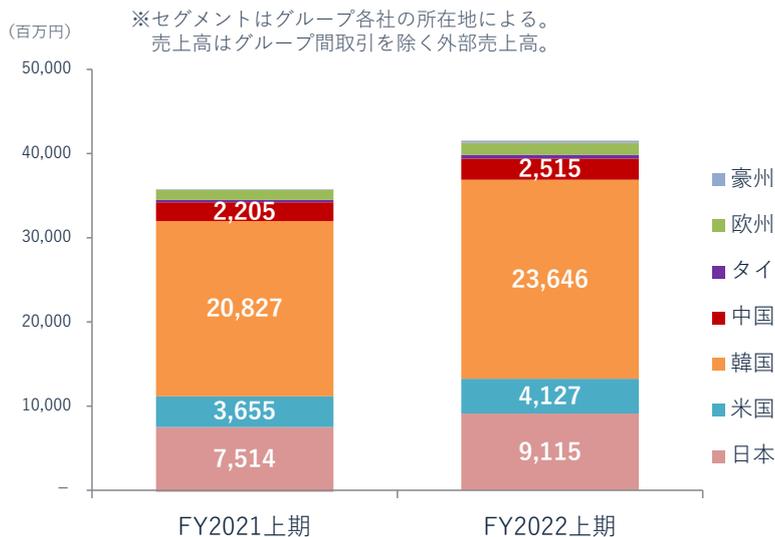
(単位：百万円)

	前期Q1-Q2累計		当期Q1-Q2累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	35,578	(100.0%)	41,547	(100.0%)	5,968	(16.8%)
売上総利益	5,808	(16.3%)	5,908	(14.2%)	100	(1.7%)
営業利益	400	(1.1%)	7	(0.0%)	▲392	(▲98.0%)
経常利益	733	(2.1%)	2,070	(5.0%)	1,337	(182.4%)
純利益	345	(1.0%)	1,272	(3.1%)	926	(268.1%)
EPS(円)	65.66		241.00			

【最近の四半期業績推移】



FY2022上期 セグメント別売上高実績



日本

新車市場が半導体不足や物流の混乱で停滞するなか、円安もあって、海外補修用部品市場を中心に好調に推移。

米国

既存顧客への拡販と取扱品目の追加により販売増加。

韓国

半導体不足による完成車メーカーの生産調整によって一部影響を受けるも、電動ウォーターポンプと海外補修用部品を中心に販売拡大。

中国・欧州

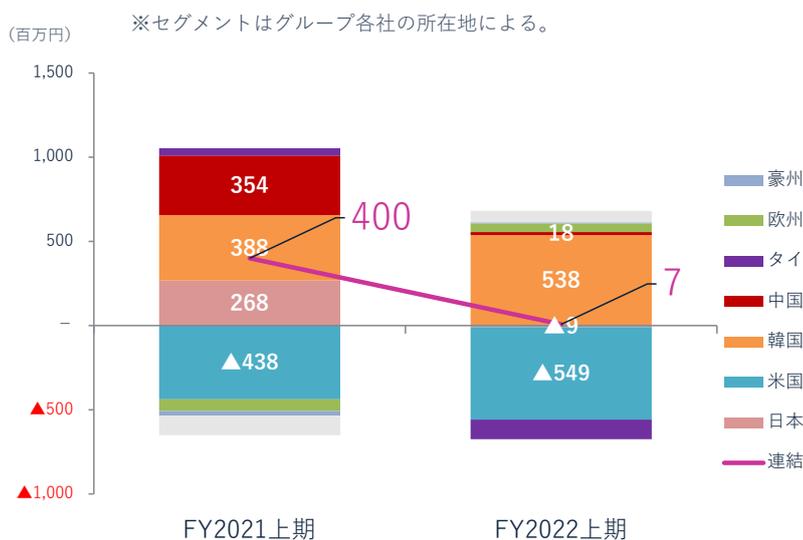
現地新車用ウォーターポンプが増加
ロシア工場は3月以降稼働停止中。

豪州

3年前新設した補修用部品の販売拠点で販売が軌道に乗り出す。

日本	7,514	9,115
米国	3,655	4,127
韓国	20,827	23,646
中国	2,205	2,515
タイ	294	448
欧州	1,208	1,431
豪州	55	226
調整額	▲183	36
連結	35,578	41,547

FY2022上期 セグメント別利益実績



日本

販売は好調ながら、調達価格の値上がり、円安による海外調達コストの増加、物流コストの高止まりによって、採算が悪化。

米国

大手小売業者の採算悪化や物流コストの高止まりによって、赤字拡大。

韓国

販売増加により増益も、調達コストの上昇の影響を受け始める。

中国・タイ

素材から加工する生産拠点が中心であり、鋼材やアルミ等の原材料価格の高騰による採算の悪化。

欧州

販売増加によって、ロシア工場稼働停止の影響も吸収し、黒字継続。

豪州

販売が軌道に乗りはじめ、黒字転化。

日本	268	▲9
米国	▲438	▲549
韓国	388	538
中国	354	18
タイ	43	▲117
欧州	▲69	51
豪州	▲28	6
調整額	▲116	68
連結	400	7

FY2022上期 営業利益以下の増減

(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	増減額
営業利益	400	7	▲392
営業外収益	597	2,434	1,836
（うち為替差益）	(205)	(1,968)	(1,763) (※1)
（うちデリバティブ評価益）	(158)	(276)	(118)
営業外費用	265	371	106
（うち金融費用）	(219)	(346)	(126) (※2)
経常利益	733	2,070	1,337
特別利益	32	2	▲30
特別損失	8	39	30
（うち減損損失）	(-)	(27)	(27) (※3)
税引前利益	757	2,033	1,276
法人税等	295	334	39
少数株主持分損益	116	427	310
四半期純利益	345	1,272	926

※1

主に日本本社の保有する外貨資産の円安による評価益。

※2

有利子負債の増加と海外調達金利の上昇による増加。

※3

米国拠点のリース資産が会計基準の変更によって固定資産に計上されるも期首および当期で減損処理。

FY2022上期 キャッシュフロー実績

(単位：百万円)

	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	▲320	407	+728
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,070	▲1,480	▲409
財務活動によるキャッシュフロー	1,596	1,999	+403
フリーキャッシュフロー	▲1,390	▲1,073	+318

【 当期の主な内訳 】

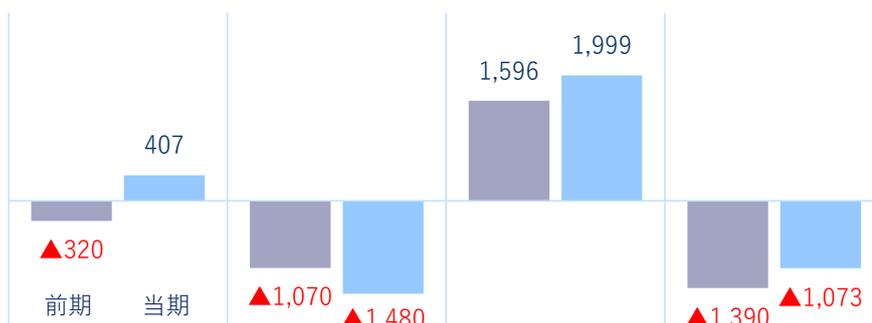
● 営業CF	
税金等調整前利益	2,033 百万円
減価償却費	1,679
為替差益	▲1,150
売上債権の増加	▲1,139
棚卸資産の増加	▲885
● 投資CF	
設備投資	▲2,060
定期預金増減	622
● 財務CF	
借入金の増加	2,759

営業CF

投資CF

財務CF

フリーCF



【 現預金と有利子負債残高 】



I. 2023年3月期上期実績

II. 2023年3月期通期見通

III. 今後の対応

FY2022通期 損益計画

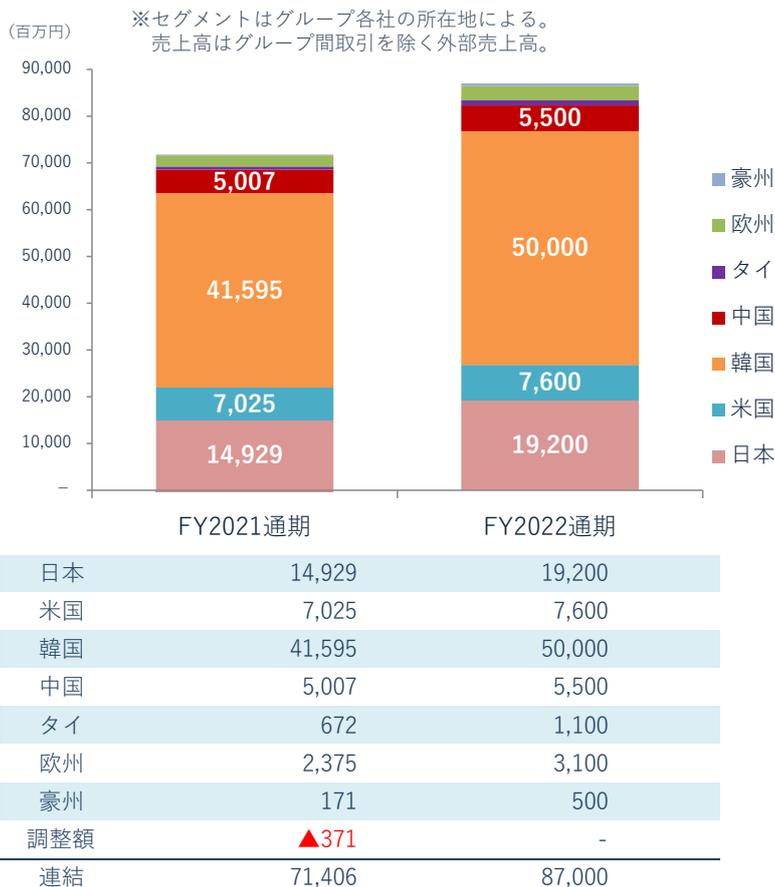
(単位：百万円)

	前期実績		当期計画		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	71,406	(100.0%)	87,000	(100.0%)	15,593	(21.8%)
売上総利益	11,801	(16.5%)	12,900	(14.8%)	1,098	(9.3%)
営業利益	1,148	(1.6%)	600	(0.7%)	▲548	(▲47.7%)
経常利益	1,954	(2.7%)	2,350	(2.7%)	395	(20.3%)
純利益	660	(0.9%)	900	(1.0%)	239	(36.3%)
EPS(円)	125.37		170.52			

【最近の5年間の業績推移】



FY2022通期 セグメント別売上高計画



日本
海外補修用部品市場を中心に好調に推移。サプライチェーンの混乱も改善が進み受注残高をこなしながら売上増加を見込む。

米国
現地の在庫圧縮を進めたことにより、上期対比では販売減少を見込む。

韓国
引き続き、電動ウォーターポンプと海外補修用部品を中心に販売拡大を見込む。

中国・欧州・豪州
上期の傾向を継続。
ロシア工場は3月以降稼働停止継続。

※換算レートが円安となったことによる売上高の増加効果もあり。

想定レート&換算レート

	想定レート		子会社(12月決算)の換算レート		
	当初	下期	前期	当初想定	見直後
1USD (円)	123.00	145.00	109.80	123.00	132.00
1KRW (円)	0.1000	0.1030	0.0960	0.1000	0.1015

FY2022通期 セグメント別利益計画



日本
売上高の増加、物流コスト高騰の緩和、価格転嫁の効果などにより、下期増益を見込む。

米国
中国からの輸入関税引き下げに加えて、過年度の関税還付によって調達コストの改善を見込み、下期赤字幅縮小。

韓国
売上高の増加に対して、調達・物流コストの上昇に加え、人件費や開発費の増加によって減益を見込む。

中国・タイ
生産・販売量の増加に加えて、鋼材やアルミ等の原材料価格の高騰に落ち着きが見られることから上期対比では増益を見込む。

欧州
ロシア工場稼働停止継続により、上期対比では減益を見込む。

豪州
上期並みを予想。

設備投資・減価償却費の推移



FY2022 設備投資計画の内訳

(単位: 億円)

	投資額	主な内容
日本	5.0	維持・合理化
韓国	31.5 (当初15.5)	新規開発・増産等
中国	7.5	増産・維持・更新等
タイ	3.5	維持等
欧州	2.0	増産等
計	49.5 (当初33.5)	

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>
 G M B 株式会社 経営企画部
 電話 : 0745-44-1912
 Email : ir@gmb.jp